

国公立大入試で総合型の 募集人員が昨年比 3.6%増！

約3割増えた昨年よりは鈍化も、今年も3.6%増加。
総合型・学校推薦型での共通テスト利用は増加傾向が継続！

旺文社 教育情報センター 2021年11月11日

文部科学省はこのほど、『令和4年度 国公立大学入学者選抜の概要』を公表した。全体に占める「総合型+学校推薦型」の募集人員が、4年連続で20%を超え、過去最高だった昨年をさらに上回った。国公立大入試の概況とトピックス、推移などをまとめた。

※本稿のデータは『国公立大学入学者選抜の概要』（文部科学省）に基づく。2021年7月末現在の集計。公立の専門職大学を含む。7月末時点での設置認可申請中等の予定を含む（新設予定大学を除く）。募集人員に外国人留学生対象の選抜は含まない。2020年以前の記述では、一般選抜⇒一般入試、総合型選抜⇒AO入試、学校推薦型選抜⇒推薦入試、をそれぞれ示す。

■2022年、国公立大入試 概況

◎主な選抜区分の募集人員の前年差と前年比 ※（ ）内は前年の同データに対する増減率。

【一般選抜】国立大・前期▲194人（▲0.3%）、後期▲247人（▲1.9%）

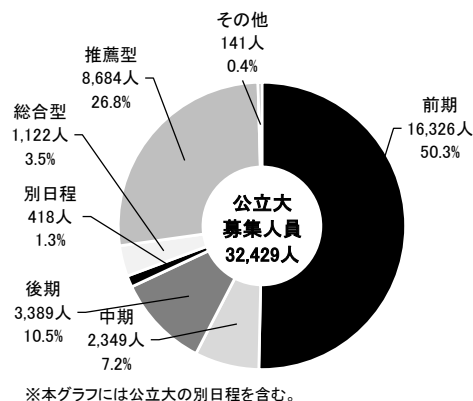
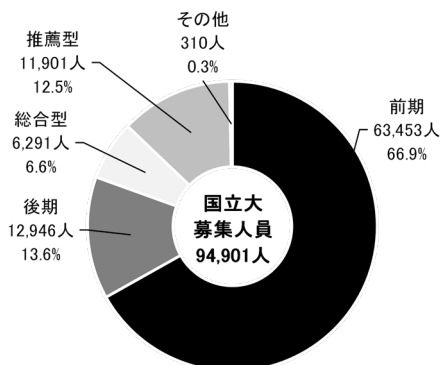
公立大・前期+124人（+0.8%）、中期▲15人（▲0.6%）、後期▲124人（▲3.5%）

【総合型選抜】国立大+200人（+3.3%）、公立大+56人（+5.3%）

【学校推薦型選抜】国立大+52人（+0.4%）、公立大+222人（+2.6%）

◎昨年に続き、今年も国立大、公立大ともに総合型選抜の募集人員が増加した。学校推薦型もともに増加。全体の募集人員（公立大の別日程を含む）に占める「総合型+推薦型」の割合は国公立大合計で22.0%。4年連続で20%を超え、過去最高。

■2022年入試 国公立大 選抜区分別の募集人員と割合 ※「その他」は帰国生徒選抜、社会人選抜など。



■2022年、国公立大入試 トピックス

◆総合型選抜、学校推薦型選抜の増加傾向は変わらず

◎2022年入試 実施大学・学部数＝国立 82 大学 401 学部、公立 94 大学 209 学部。

◎2022年入試で総合型選抜、学校推薦型選抜を行う国公立大 ※（ ）内は前年の数値。

[総合型選抜] 国立 64 大学 (63)・258 学部 (250)

公立 38 大学 (36)・77 学部 (74)

[学校推薦型選抜] 国立 77 大学 (76)・283 学部 (279)

公立 93 大学 (91)・203 学部 (199)

◎国公立大合計の募集人員（一般選抜 [前・中・後期]、総合型選抜、学校推薦型選抜）

※（ ）内は前年差。

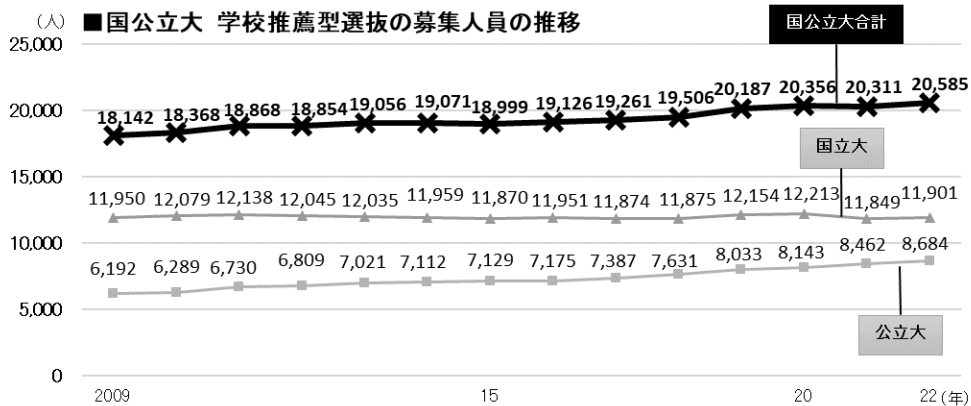
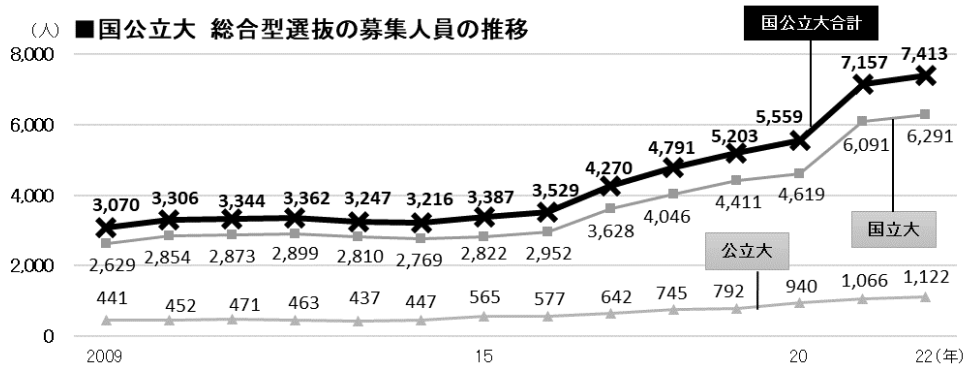
[一般選抜] 前期 79,779 人 (▲70 人)、中期 2,349 人 (▲15 人)、後期 16,335 人 (▲371 人)

[総合型選抜] 7,413 人 (+256 人)

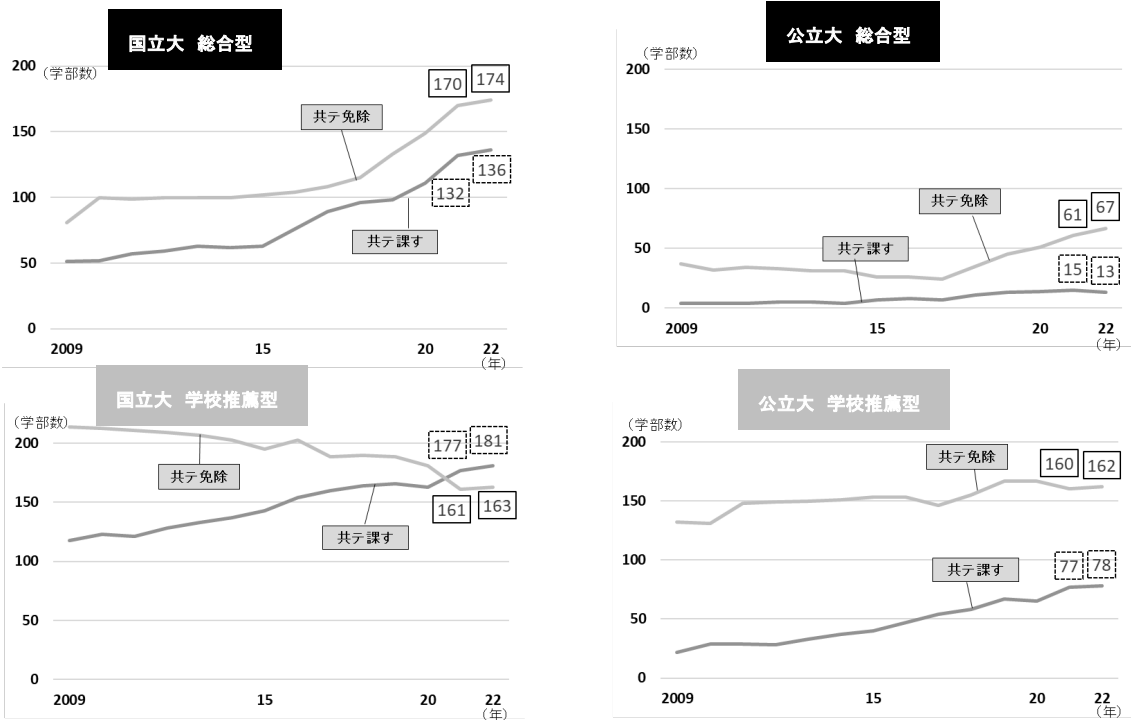
[学校推薦型選抜] 20,585 人 (+274 人)

◎総合型と学校推薦型の募集人員が増えた。実施する大学・学部も微増。一方、一般選抜の募集人員は後期日程を中心に減少。

◎国公立大合計の「総合型+推薦型」の募集人員は、前年比 101.9%。昨年ほどの大きな増加ではないものの、増加傾向は変わらず。今後も増加傾向が見込まれるため、要注目。



■国公立大 総合型選抜、学校推薦型選抜 実施学部数の推移



◆総合型、推薦型で共テ利用拡大

- ◎学力把握措置のひとつである共通テストの利用。共テを課す学部数の増加傾向は変わらず。
- ◎国立大の総合型の急増が目につく。
- ◎公立大では共テ免除の総合型、共テを課す推薦型が増加傾向。
- ◎総合型・推薦型を実施する学部総数に占める共テを「課す割合・免除する割合」は、10年前は「3対7」。その後、課す割合が継続して高まり、2022年入試も4割を超えている。

■国公立大 総合型選抜、学校推薦型選抜 共通テストを「課す・免除する」学部数の割合の推移

[実施学部数]	共通テスト	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
総合型選抜	課す	55	56	61	64	68	66	70
	免除	118	132	133	133	131	131	128
学校推薦型選抜	課す	140	152	150	156	166	174	183
	免除	346	344	359	358	357	354	348
[総合型+推薦型]合計	課す	195	208	211	220	234	240	253
	免除	464	476	492	491	488	485	476
[総合型+推薦型]合計	課す割合	29.6%	30.4%	30.0%	30.9%	32.4%	33.1%	34.7%
	免除する割合	70.4%	69.6%	70.0%	69.1%	67.6%	66.9%	65.3%

[実施学部数]	共通テスト	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総合型選抜	課す	84	96	107	111	125	147	149
	免除	130	132	150	178	200	231	241
学校推薦型選抜	課す	201	214	222	233	228	254	259
	免除	356	335	345	356	348	321	325
[総合型+推薦型]合計	課す	285	310	329	344	353	401	408
	免除	486	467	495	534	548	552	566
[総合型+推薦型]合計	課す割合	37.0%	39.9%	39.9%	39.2%	39.2%	42.1%	41.9%
	免除する割合	63.0%	60.1%	60.1%	60.8%	60.8%	57.9%	58.1%

■国公立大入試 一般選抜の概況

- ◎国公立大の個別試験は、同一募集単位の入学定員を前期日程と後期日程に振り分ける「分割」と、前期日程での合格者が入学手続きをしてから後期日程試験を行うという、前期・後期の「分離」とを組み合わせた「分離分割方式」で実施される（公立大の中期日程と別日程を除く）。
- ◎分離分割方式では、前期日程で合格し、入学手続きをした者は、後期日程（中期も含む）を受験しても合格者とならない。
- ◎国立大では 2006 年入試以降、「総合型・学校推薦型選抜」の導入を前提に、「前期日程のみ募集」「後期日程のみ募集」などを可能にしてきた。
- ◎このような動きを受け、国立大では募集人員全体に占める一般選抜の割合が下がり、総合型・学校推薦型選抜の割合が上昇。一般選抜のなかでは、前期日程の募集人員の割合が高まった。
- ◎公立大も同様に、全体に占める一般選抜の募集人員の割合は下がり、総合型・学校推薦型選抜の割合が上昇。一般選抜では前期日程の割合が高まった。
- ◎公立大のみにある中期日程。かつて 12 大学で実施されていたが、2013 年新設の秋田公立美術大が中期日程を実施。その後も、私立から公立化した大学や、公立短大から公立大となった大学が相次いで中期日程を実施しており、募集人員増につながっている。

(2021. 11 今村)

■募集人員全体に占める選抜区分別の割合の推移 ※「その他」は帰国生徒選抜、社会人選抜など。

国立大	2017年入試	2022年入試	公立大	2017年入試	2022年入試
募集人員 (全体)	95,448人	94,901人	募集人員 (全体)	29,472人	32,429人
一般選抜	83.2%	80.5%	一般選抜	72.0%	69.3%
総合型・学校推薦型 選抜	16.2%	19.2%	総合型・学校推薦型 選抜	27.2%	30.2%
その他	0.5%	0.3%	その他	0.7%	0.4%

※公立大一般選抜の別日程を含む。

■一般選抜の募集人員に占める日程別の割合の推移

国立大	2017年入試	2022年入試	公立大	2017年入試	2022年入試
募集人員 (一般選抜)	79,431人	76,399人	募集人員 (一般選抜)	21,222人	22,482人
前期日程	81.2%	83.1%	前期日程	72.0%	72.6%
後期日程	18.8%	16.9%	中期日程	9.3%	10.4%
			後期日程	17.2%	15.1%
			別日程	1.4%	1.9%

※公立大一般選抜の別日程を含む。